外国でのフィールドワークにおけるIT利活用の事例

堤　純（愛媛大学法文学部）
jtsu@ehime-u.ac.jp

オーストラリア研究の契機と経過

- 外国のフィールドへの（漠然とした？）憧れ
- 「地理学者たる者，（外国）地誌ができなければダメ」
- オーストラリア人研究者の友人の存在
- 科学研究費（H14-16, 18-20, 21-23等）の交付
- 文部科学省「海外先進教育研究実践支援プログラム」（H17年3～6月）
- モナーシュ大学・豪日交流基金研究助成プロジェクト（H20年8～9月）
- 愛媛大学在外研究（H21年3～9月）

現在の渡豪歴17回

フィールドワークとIT①<ネット接続確保>

- 現地での主要な連絡手段
  - アポイントは現地でとる
- 臨機応変な対応
- 研究資料収集
- 現地情報収集
- 交通機関手配や変更
- 日本のニュース閲覧

モバイルネット接続モデム　まさに，万能ツール

フィールドワークとIT②<現地の携帯電話>

必要に応じてチャージし，一定額の残額を保てば，同じ電話番号を次回渡豪時も利用可能

- 現地での主要な連絡手段
  - 通話はもちろんSMSも
- 臨機応変な対応
- レンタカー利用時にも便利
- 「国際電話」ではない，心理的な壁の撤廃

Long-life プリペイド携帯　まさに，必需品

フィールドワークとIT③<日本の携帯電話他>

日本の海外対応携帯　New Zealandでも・・・

フィールドワークとIT④<ICレコーダー>

- 聞き取り内容を後で確認するために，実は，録っています・・・
- こうすることで，現地での会話に余裕が生まれる
  - フィールドノート記載だけに終始しないで済む

その他諸々

オンデマンドでペーパー化

帰り荷は軽くペーパーレス化

モバイルプリンター

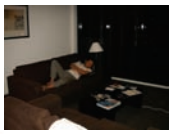
スキャナ

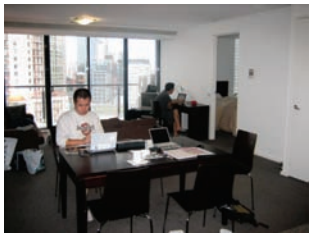
Accommodationの選択

- 可能な限りキッチン・食器・家電・家具付きの部屋を借りる

机は必需品,ソファはとても重宝

- 研究の「ベースキャンプ」
- Make ourselves at home
  - House keeping





食材調達

自炊が基本

- 食べ慣れたものを食す
- バランス良い食事を心がけ

レンタカー利用のメリとハリ

- あった方が便利だが，借りっぱなしにはしない
- 「到着後2～3日」「出発前2日」「必要な時」
- 公共交通利用の意外な（？）効果

外国調査の「窓」

- 現地の大学関係者にメールでアポイント
- 滞在期間中に，可能な限り2回会ってもらう
- パソコン，ハードコピーを駆使して議論
- メールと携帯は必需品

研究スタイルの変化

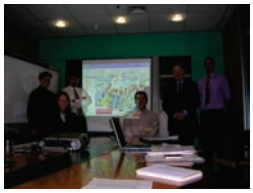
- What's your conclusion?
  - 自分の研究を考え直す契機となる
- GISで地図化
  - プロはいくらでもいる（大学の本分は「考察」）
- 地図から読み取る
  - だから，それが何？
- フレームワークと，考え方と，ストラテジー
  - 「○○を調べたら，×××がわかるハズ」
  - もちろん，想定外の発見はアカデミックな楽しさあり

現地でのDiscussion①<メルボルン市役所>

- メールで市役所<総合案内>にアポイント
  - 都心の建築物高層化に興味があること
  - 大学でGISを教えていることを付記
- 市役所調査部門から返信あり
- パソコンをもって訪問
- いきなりプレゼン
- 共同研究開始

堤　純 2004 オーストラリア・メルボルン市における統計データの整備とGIS. 統計，日本統計協会，pp. 9-14.

Tsutsumi, Jun　2004 Integrating macro and micro data by GIS in the urban land-use analysis. In Pacione, Michael ed.: Changing Cities International Perspectives. IGU Urban commission, Monitoring cities of tomorrow, and Strathclyde University Publishing, Glasgow, UK. pp. 351-356.



Melbourne City Research
Austin Ley氏
Serryn Eagleson氏他

現地でのDiscussion②<メルボルン大学，モナーシュ大学>

- 在外研究滞在中（H17, H21年）何度か発表機会あり（まるでゼミ発表？）
- 質問の集中砲火
- なんとかこなして・・・
- 受け入れ教官と議論
- 次回訪問時までの宿題

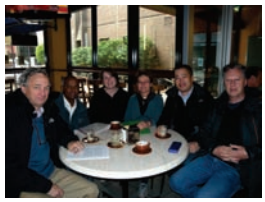
現地でのDiscussion③<with Kevin O'Connor>

- H17年の滞在以降，渡豪時は毎回訪問
- Tsutsumi, Jun and O'Connor, Kevin　2006　Time series analysis of the skyline and employment changes in the CBD of Melbourne. Applied GIS (Monash University ePress), 2 (2). pp. 8.1-8.12. DOI: 10.2104/ag060008.
- 堤　純，オコナー・ケヴィン 2008 留学生の急増からみたメルボルン市の変容．人文地理，60，pp.323-340.

ほか，すべてのメルボルン関連論文のベース

現地でのDiscussion④<Population Research Centre>

- Kevin O'Connor，Ray Wyatt, Jim Peterson…らの相次ぐ定年退職
- 「劣勢な」人文地理部門
- 「Melbourne」「Geography」「GIS」で検索
- 思わぬ（？）オファー



Appendix①
「Japan」をテーマとした交流

モナーシュ大学
マンガライブラリー

メルボルン大学
日本留学経験者と歓談

Appendix②
松山同窓会？

- メルボルンで最も authentic な日本料理店「花菱」のオーナーシェフ（松山出身）と歓談
- 毎回のように自宅に招待
- 現地の生活情報入手
  - もう一つの「窓」

こうした研究の
ベースキャンプで考えたこと

2010年 日本地理学会（名古屋大）での発表内容から

メルボルンは公共交通優位の都市か？

- 2006年センサス時
  - 大都市圏人口 359万人
  - 海外生まれ 28.9%
  - 197,834人の就業者が公共交通を利用して通勤（全就業者の13.9%）。
  - 2001年の同12.8%から割合が若干増加。

Source: A Social Atlas of Melbourne.
Australian Bureau of Statistics 2006 census

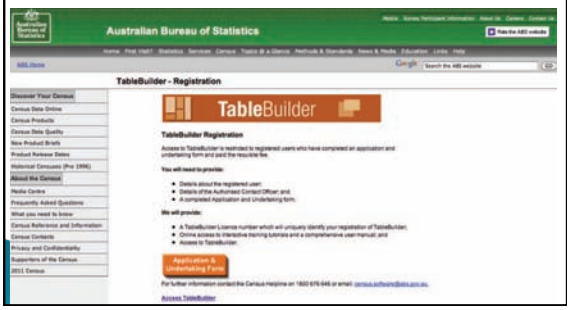
目的

- メルボルン大都市圏を対象として，交通手段別にみた通勤流動のパターンから大都市圏構造の特徴を考察する
- 「都心通勤者の約50%が公共交通を利用」という事実
  - 強い/元気な都心
  - 発達した公共交通
- しかし，裏を返せば，半数は「自家用車で通勤」という事実をどう捉えるべきか？　問題点はないだろうか？

データ

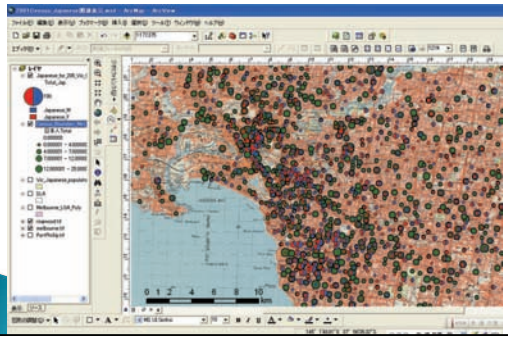
- オーストラリア統計局（以下，ABS）発行2006年国勢調査データの公開サービス（有料）「テーブル・ビルダー」
- 民族的な出自，宗教，所得，学歴等々家庭で使用する言語や所得，通勤に使用する交通手段等に関する詳細なデータが取得可能
- 単一属性のみならず，「通勤に自家用車を利用」かつ「週給2,000豪ドル以上の高所得者」というような2種類以上の属性をクロスさせたデータも取得可能
- 特定の大都市圏や都市，中統計区（SLA），小統計区（CD）といった任意の地区に対してデータ取得可能

オーストラリア統計局（ABS） http://www.abs.gov.au/
2006年センサス ダウンロードサービス（$1,655≒132,000円）
Table Builder http://www.abs.gov.au/TableBuilder



GISソフトウェアと組み合わせることで，経年変化が追跡可能

例：日本人居住地区の変化（2001年＜赤・青＞→2006年＜緑＞）

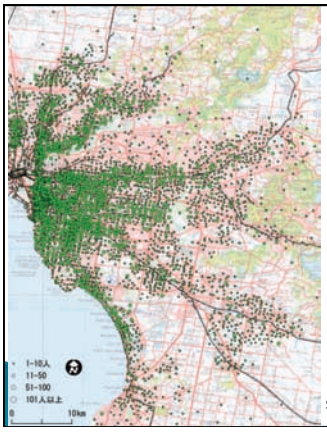


二大就業地：自家用車による通勤

CBD

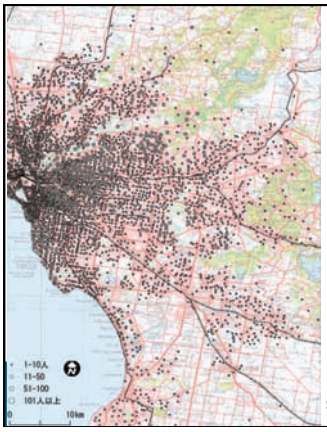
Kingston North

Source: オーストラリア統計局（ABS）



公共交通

Source: オーストラリア統計局（ABS）



自家用車

Source: オーストラリア統計局（ABS）

パークアンドライド

Source: オーストラリア統計局（ABS）

典型的なパーク&ライド駅
East Malvern Station

East Malvern Station

最大規模の駐車場
外灯完備
郊外への大動脈「M1」のインターチェンジ至近

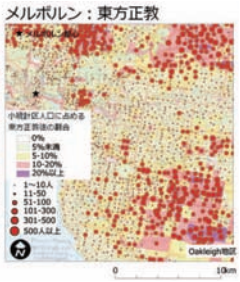
メルボルン大都市圏における高所得者の分布（2006年）

Source: オーストラリア統計局（ABS）

GISをピンポイントで利用？

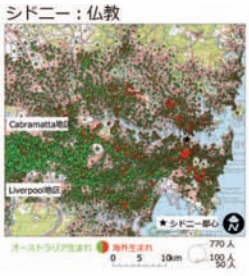
メルボルン：ユダヤ教

メルボルン：東方正教



堤　純・松井圭介　　シドニーおよびメルボルン大都市圏における社会特性．日本地理学会秋季学術大会（2010年10月2日，名古屋大学）

シドニー：仏教



シドニー：ヒンドゥ教

堤　純・松井圭介　　シドニーおよびメルボルン大都市圏における社会特性．日本地理学会秋季学術大会（2010年10月2日，名古屋大学）

Thank you for your attention!